

8 資料編

アンケート調査

本計画を作成するにあたり、鈴鹿市社会福祉協議会が開催した講演会や研修会等において実施したアンケート調査よりいただいた意見や、本会の会議・事業を通して地域住民の方々から聞き取りをした意見を取りまとめ、「地域の声」として計画に反映しています。以下はそのアンケートやご意見の内容を取りまとめたものです。

1. 「地域の声」として取りまとめたアンケートやご意見等の元になった事業と、それぞれが全体に占める割合

市民向けアンケート

・地域福祉計画策定に関するアンケート

講演会・研修会等

・地域福祉講演会
 ・支え合いフォーラム
 ・鈴鹿ふくし大学
 ・認知症サポーター養成講座
 ・法福官連携権利擁護研修会

会議・委員会等

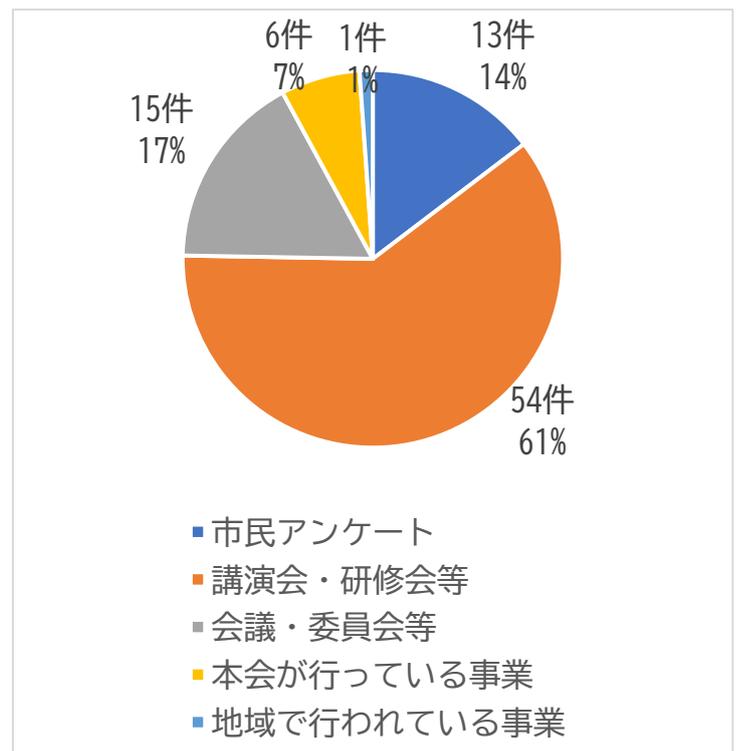
・子育て支援に関する会議
 ・地域福祉活動計画評価推進委員会

本会が行っている事業

・緊急助け愛募金
 ・ワークキャンプ事業
 ・見守り支援事業

地域で行われている事業

・子ども食堂



2. 4つの基本目標へ整理した「地域の声」の内容

基本目標1 地域の福祉活動に対するアプローチ、多様な情報の発信 に関する意見

・子どもの貧困の裏側には、表に出てきている問題と隠れている問題がある。当事者が声に出せない課題を拾って、まずは話を聞いてほしい。

- ・気になる人(日常の生活に支援が必要・災害時にひとりでは避難ができない等)はいるが、特に何もしていない・どうしたらいいのかわからないと感じている人が約6割程度いる。
- ・行政任せにせず、地域の自主的な取り組みが重要。行政と地域との連携の仕組みづくりを充実させる必要がある。一人ぼっちをなくす。
- ・助けあって一日一日を大切にあらためて感じました。地域の民生委員さんなどの変さがよく分かりました。相談・援助の機関があることを皆知ることが必要だと思います。
- ・地域で支え合って暮らす、「助けて」と言いやすい日頃のつながりの大切さ、ご近所の見守りの必要性などとても大切なことです。
- ・まちづくり協議会や地元の自治会でも少しずつつゆつくりと取り組み始めました。民生委員活動にも協力的で気にかけてくださるので助かります。
- ・独りにさせない、誰かが見守ってくれているという安心感はとても大事なことです。引きこもりなど難しいこともたくさんありますが。
- ・住み慣れた自宅で生活できるよう地域全体で見守りや関わりができるような仕組みがあればよいと思います。
- ・養成講座などもっと身近で参加できるようにしてほしい。認知症で行方不明になった場合の地域全体への連絡のシステムなどを考えたい。
- ・近所の方々のあたたかい支援、非難ではなくあたたかい眼で見ていただける環境づくり。住み慣れた地域で出来る限り生活できるとよいと思う。
- ・何か異変を見たり感じたりした場合、早く家族や民生委員等に情報が届くと治療も早く受けられる。
- ・就労支援については、ハローワークの協力を得て出張による個別相談や、平日仕事をしている方向けに日曜窓口の開催や夜間の窓口対応を行っている。こういった取り組みをしっかりとアナウンスしていきたい。
- ・若年層に届く情報発信が必要。
- ・まだ活動を知らない住民がいるため、地域の支え合い活動の勉強会、研修会をしていただきたい。
- ・福祉というネーミングだけで、堅苦しく少し暗くてハードルの高さを感じさせると思う。こうしたイメージを改めてなるべく一般の方、とりわけ若い世代の人に来てもらい聴いていただくべきではないかと思った。講演会の開催は休日の方がベターではないか。
- ・地域へのPR手段。包括支援センター等理解していない住民が多い。
- ・すぐに相談できる窓口の設置と周知を進めるための広報活動。誰もが困ったらここに！という情報が目につきやすい工夫をしてほしい。
- ・相談できる医療の方、支援の方がすぐわかる一覧表のようなものがあつたらよいと思います。
- ・誰に相談したらいいかわかるような冊子のようなもの(フローチャート)を高齢者に配布してほしい。
- ・スマホの中にデータとして持っておけるガイドブックのようなものがほしい。
- ・民生委員だといろんな資料をいただけるが、若い世代は中々手に入れる機会がないようです。
- ・子育て情報の隣に、オレンジロバとミニ資料があると目にとまりやすく、子どもも興味を持ってくれる

のではないのでしょうか。

- ・色々な所で話を聞いてもらい、地域の目が増えたら良いと思います。今の時代なのでQRコードで情報がつながるのは良いと思います。
- ・気軽に言葉として出せない難しい状態を地域にてより近くに理解してくれる人がいると安心できると思う。
- ・チームオレンジはほとんどの人が知らないと思うので、知るきっかけとして何かしてほしい（自治会などへの訪問）。
- ・YouTube等で認知症の家族や見守る人向けにどのような対応をすれば良いかを知らせる工夫をしてみてもどうでしょうか。
- ・気軽に相談できる場所、どこに相談すればよいか、病院に連れて行くのが大切だと思うが、本人を連れていくためにどうすれば行ってくれるのか等、認知症だと診断される前にどのように動けばよいか、教えてくれるところがあればいいと思います。
- ・サポーターを育てるより、サポーターの存在を各家庭に知っていただくことも大切ではないかと思えます。
- ・様々な支援を受けるにあたって手続きが簡単でわかりやすいものだと助かります。書類などが多いと中々助けていただくまでの時間がかかるので誰でもすぐに申請ができるのと良いと思います。
- ・貸付について知らなかった。弟から聞いた。貸付等の知っておいた方がいい情報がほしい。
- ・誰もが理解できる翻訳と情報の支援が必要。
- ・食糧支援のことを全く知らなかったのですが、このような支援がいただけることに感謝です。
- ・高齢者等はまだまだネットを活用できる環境になく、パソコンが使えない方、情報を入手することが困難な方への伝達方法を検討することが今後の課題。

基本目標2 地域福祉活動参加機会の創出 に関する意見

- ・地域福祉に参加するきっかけづくりが必要。
- ・地域福祉を担う団体の構成員の高齢化、減少による担い手の不足。
- ・地域福祉を担う団体の運営を主体的に進めることができる人材の不足。
- ・若年層が興味を抱く福祉体験機会の提供。
- ・若年層がボランティアに参加するきっかけづくり。
- ・若者とのコラボが今後必要だと実感した。
- ・地域の子どもと連携して行っていくべきだと思う。参加ではなく参画させていくことが大切。
- ・高齢者問題は色々取り組みが進められていますが、最近では児童の置かれている環境が非常に悪化してきていると感じます。子どもの問題、児童福祉の種々の問題についての講演会をお願いしたいと思います。
- ・自分がなにかをしてあげるではなく、きっかけを作ってあげることが大事なんだと気づかされました。気配りを大切に少しずつつながれる地域になれば良いと思いました。
- ・学生にとってはオンライン会議なども当たり前の世代になってくると思いますので、今後も活用さ

れてはいかがでしょうか。

- ・幼少期から福祉体験や学習の場を提供することで、福祉に対する理解と思いやりの心が育つのではないかと考えます
- ・生徒が実際に車イスに乗る、利用者さんのための浴槽に入らせてもらうなど身体の不自由な方やお年寄りの生活を疑似体験させていただいたことによって、介護の仕事により興味を持って取り組めたと思います。
- ・小学校、中学校などで認知症に学ぶことができるような努力をしてください。小さい頃から偏見なく接することができたら良いと思います。
- ・認知症についての正しい知識を小学校など小さいときから教育として行われるのが良い。

基本目標3 地域と住民のつながりの維持と新しいつながりの創出 に関する意見

- ・地域の交流やつながりづくりのための活動の促進。
- ・地域福祉を担う団体の構成員の高齢化、減少による担い手の不足。
- ・地域の構成員として福祉施設や事業所にも役割をいただき、共に活動に加わってけると嬉しい。
- ・若い人の参加にも取り組むことが必要だと感じた。
- ・地域の特色に合わせたまちづくりが重要。真似してもダメ。地域を知り、社会貢献も視野に入れた計画がいるのだと思いました。
- ・地域の支え合い活動の必要性を感じている方は9割以上だと思う。
- ・助け合いの活動はこれからの地域社会には必ず必要である。自分が楽しく暮らすことは認知症の予防になり、楽しい人生を過ごすことになる。
- ・これから助け合い運動が進んでいくと自分の未来(高齢者になった時)は安心だと思った。
- ・食事はもちろん、訪問員の方にたくさん話を聞いていただき、アドバイスもいただき、とても助かっています。
- ・放課後に子どもを低額で預かり、地域のボランティアや高齢者と子どもが交流できる場を作る等、地域一丸となって取り組んでいくことを検討している。
- ・障がい者や外国人などとの共生。
- ・孤立している人の社会参加の仕組みづくり。
- ・高齢者だけでなく、障がい者についても取り上げてもらい、取りこぼしなく考えていきたい。
- ・これから地域がすばらしく変わるために、稀薄な近隣の仲間づくりを子どもを通して若い親世帯の生きがいづくり、高齢者と若者が手をつなげていけるように自治会、支援者のまとまりが第一だと思います。若い世代の感覚を「地域が大切」だという講演をお願いしたいと思います。
- ・施策を充実させるためにはMANパワーが最も重要であると認識しています。昨今ボランティアをする人の数が減少傾向であり、支える人を確保するには人口減少を考慮すると学生や一般の参画と一部報酬制度の導入も検討することがMUST。施策と結び付け、制度化を願う。
- ・地域で行方不明になったときの発見できる仕組み作りを地域でして欲しい。
- ・認知症の人を助け合える地域をたくさん広められたらいいかなと思います。

- ・認知症本人のことも大切ですが、介護する方の支援をして欲しい。
- ・認知症本人だけでなく、家族のフォローをしてくれる仕組みがあると良いと思います。
- ・傾聴サロンとか、悩みや困っていることを何のしがらみもない方に話すだけでも気持ちが軽くなると思う。
- ・家族だけの問題にせず、周りの人に助けてもらえるような仕組みがあれば一番いい。皆にわかってもらえるのがいいと思う。
- ・子どもを預かってもらうところを紹介してほしい。
- ・日本人への相談以外に、外国籍の方同士が相談し合える場所があるということも、より一層の安心感につながると思われます。
- ・外国籍の当事者が、悩みや課題を話し合える交流の場を提供し、専門機関だけではなく地域の住民とも交流できる工夫が必要かと思います
- ・後期高齢者が増えると徘徊高齢者も増えてくる。各地区内での連携ネットワーク方法を根本的に考える必要がある。横の連携がとれるマニュアルやシステムの構築が必須。
- ・人とのつながりを大切にすることが非常に大切なことと考えさせられました。車に乗れない人をいつも一緒に乗せて色々なところに行きますが、私 75 歳で事故でも起こしたらどうしようと今考えているところです。
- ・子ども食堂の拠点を作りたい（食糧品の保管場所）。必要な時に取りに来られるステーションなど。
- ・地域の子どもと連携して行っていくべきだと思う。参加ではなく参画させていくことが大切。
- ・若い人の参加にも取り組むことが必要だと感じた。

基本目標4 地域の支え合い機関のネットワークづくり に関する意見

- ・個人的な関わりではなく、組織でつながっていく必要がある。
- ・地域、NPO、行政、社協との連携が必要。
- ・ヤングケアラー問題などは教育委員会との連携も必要。
- ・刑務所や少年院を出た人への支援の役割分担。
- ・団体間の連携を調整する役割を担う者がいないこと。
- ・関係者間の情報交換・共有・連携が重要。
- ・地域福祉ネットワークは支援の連携強化がすごくスムーズに行くことが分かった。窓口が広いコミュニティソーシャルワークは是非とも必要（新たな仕組みの取り組みなど）。
- ・制度が充実する程に地域とのつながりが切れていくというのはその通りだと思います。
- ・相談窓口がしっかり相談を受け付けてもらえることが大切だと思います。
- ・気軽に相談でき、手続きが簡単で迅速に対応してもらえるシステム・仕組みが必要だと思います。
- ・認知症の判断を受けるのに数週間、判定を受け診断が下りるまでにさらに数週間かかり、本人も家族も不安で負担の多い生活をするようになります。改善できれば嬉しいです。
- ・困ったことがあったら、誰かに相談できるといいなと思います。そのためにも民生委員の存在は欠かせないなと思いました。それから相談窓口に連絡したらすぐに対応していただくと安心です。

- ・困った時に迅速に幅広く相談できる窓口があれば助かる。
- ・身寄りのない独居老人になった場合、保証人がいないと施設に入れないと聞いています。もしその人が認知症になった場合、それでは困ると思います。そうならない仕組みを望みます。
- ・介護支援専門員として受ける相談には介護保険サービスや利用する本人のこと以外の問題も多く、縦割りの支援、制度の狭間の方への支援に悩むことがあります。多重課題、介入困難なケースについてはケアマネジャーが単独で関わるには限界があり、心身の負担も大きくなります。コミュニティソーシャルワーカーの設置により、幅広い課題に行政や専門機関などの関係者が一体的に関わるようになってくるようになることを強く要望し、早急な実現を期待します。
- ・市民および専門職の相談に柔軟に対応していけるような体制づくり(窓口の設置)を望みます。
- ・高齢者に限らず、障がい者、生活困窮者、子ども等多様な問題を抱えているケースもあり、福祉の総合相談窓口の設置については急務と考えます。
- ・相談機関として、法律関係との連携ができていない。法律家に相談すると費用が発生するイメージが強く、なかなか相談がしづらいように感じる。どのように連携を進めていけばいいか悩んでいる。